

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	ふれあい館・桜本こども文化センター	評価対象年度	平成25年度
事業者名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者名 社会福祉法人青丘社</li> <li>・代表者名 理事長 斐 重度</li> <li>・住所 川崎市川崎区桜本1-9-6</li> </ul>	評価者	こども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	川崎区こども支援室

2. 事業実績

利用実績	<p>1 ふれあい館・桜本こども文化センター</p> <p>①年間延べ利用者数 60,419人      ②年間延べ利用団体数 915団体</p> <p>2 さくら小学校わくわくプラザ</p> <p>①登録者数 283人      ②年間延べ利用者数 22,020人</p> <p>3 大島小学校わくわくプラザ</p> <p>①登録者数 196人      ②年間延べ利用者数 14,407人</p> <p>4 東大島小学校わくわくプラザ</p> <p>①登録者数 154人      ②年間延べ利用者数 11,556人</p>
収支実績	<p style="text-align: right;">単位:円</p> <p>1 収入 指定管理料 136,374,611</p> <p>2 支出 人件費 113,914,674 事業費 10,916,330 事務経費 6,328,264 その他経費 0 合計 131,159,268</p> <p>3 差引 5,215,343</p>
サービス向上の取組	複合施設としての機能を生かし、外国につながる市民や乳幼児から高齢者を含む地域住民の様々な活動を継続的に支援することにより、社会参加や地域における自助互助活動の土台となっている。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	5	10
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
<p>(評価の理由) 館を利用し学び育った外国人市民が地域の中で活躍する場を広げ、館事業の中でもボランティアや支援者として積極的に活動している。中高生への継続的なアプローチや定例的な夜間や休日のプログラムを強化し、中高生が居場所としての利用が広がる中で各種行事やイベントを支えるボランティアが組織された。地域の祭りやふれあい館まつり、ふれあいフェスタ、もちつきなどを通して乳幼児から高齢者にまたぐ多様な世代と民族をつなぐ交流の機会となっている。これらの取組みから館利用が前年比12%増えた。わくわくプラザでは3校のわくわくプラザ合同プログラムを積極的に取り入れ、「カラーリング」「ドッジボール」「なわとび大会」「クリスマス会」等を通じ子ども同士出会い、競い合い楽しみを共有し交流を深めた。</p>					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費縮減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
<p>(評価の理由) 金銭管理・会計手続及び支出内容について、適切な経費執行であった。</p>					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	5	5
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	4	4
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	5	10
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	3	6
<p>(評価の理由) インターネットを利用した広報やメールマガジンでの発信を強化、さらに多文化共生市民活動のメーリングリストとつながりより多くの市民に情報を発信した。また、多言語情報発信により外国人市民の参加増につながった。公園愛護協会協力のもと設置した掲示板をとおし公園利用者に乳幼児向けプログラムを広報した。配慮や支援が必要な児童については個々の状況から適切に対応するため会議や情報交換会を設け丁寧に確認した。スタッフについて近隣や利用者から対応の改善が求められる事案があった。保護者懇談会は映像での説明や、簡単な料理研修を行いながら積極的に運営にかかわる意見が出しやすくなるよう工夫した。地域に密着した身近な公的機関として、地域住民・団体・学校・他機関や行政とまつりや事業を開催、また情報・課題を共有し協働での取り組みを進めた。特に学校とは運動会での民族舞踏指導や「フィリピン文化体験授業」「ハルモニとキムチ漬け」等行事を通じてさらに連携を深めた。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	3	6
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) 特別な支援を必要とする児童も含め、利用児童に応じ適切に職員を配置した。また、夜間の中高生学習サポートや居場所づくり等プログラム時には関係の継続から常勤職員を必ず配置し、中高生利用の定着へつながった。子ども支援に携わるスタッフの中には若いスタッフも多く、経験の浅いスタッフや人材育成を担うスタッフの資質向上のためには多方面からのさらなる研修の充実が必要となっている。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
		利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか			
	利用者の安全確保	事故等が発生した場合に適切な対応をしているか	5	3	3
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
		施設の防犯のための工夫をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか	5	3	3
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由) 近隣からごみ投げ入れの苦情に対応するため、ネット設置の工事を行い、外部タイルの剥がれは有償ボランティアを活用し補修を行った。施設安全点検員を選任し、隔月1回、施設だけでなく人的配置や声掛け、こどもの誘導などをチェックし、運営会議やスタッフ会議の中で報告・改善提案を行い反映させた。年3回3校のわくわくリーダー会議にて事故防止、防犯、防災について確認を行った。車いす利用の児童も含め、津波避難訓練に地域や学校と共に参加し、危機意識を高めた。</p>					

#### 4. 総合評価

評価点合計	71	評価ランク	B
-------	----	-------	---

#### 5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

継続的かつ丁寧な市民活動への支援の結果、地域の中で支え手として活躍する利用者が増えており、ふれあい館・桜本こども文化センターが乳幼児から高齢者にまたがる多様な世代と民族をつなぐ交流の土台として地域に定着していること、また、自主性を育てながらボランティアを組織するまでに取り組んでいる中高生事業への取組について高く評価する。また、多様な媒体を用いた積極的な広報活動の成果もあり、着実に利用者が増えている。  
地域住民・団体・学校・他機関や行政と連携した事業が深まり、大きな役割を果たしている。

#### 6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

ふれあい館・こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、利用者の立場で環境を整備し、携わるスタッフの資質向上にさらに取り組み、児童が安全に安心して過ごせる施設として運営に努めること。  
近隣からの騒音に対する苦情に対しては、真摯に受け止め引き続き改善に努め、事業を推進すること。